

# 産業能率大学

→ SANNO UNIVERSITY

## アクティブラーニングを軸とした カリキュラムで、知識を活用して 問題を解決できる人材を育成する

いま、日本の多くの大学でアクティブラーニングへの取り組みが進められている。その中でも、産業能率大学は「講義」と「一般的アクティブラーニング」をセットにして知識の定着を行い、地域や企業と連携しながら学んだ知識を活用して問題解決を考える「高次のアクティブラーニング」も充実。トータルな視点でアクティブラーニングを軸としたカリキュラムが設計されている。

取材・文／教育ジャーナリスト 友野伸一郎



### 「講義」と「アクティブラーニング」 をセットで学ぶ

産業能率大学のアクティブラーニングについて経営学部を例に紹介すると、まず注目されるのが「講義」と「一般的アクティブラーニング」をセットで学んで知識の定着を図るカリキュラムが導入されていることだ。産業能率大学では専門科目はすべて「基本プログラム（実践）」と「バックアッププログラム（理論）」に分類されていて、基本的にすべての科目で理論と実践がセットになるように設計されているのである。

例えば「株式会社の実務」という講義

科目を受講すると、同時に「ビジネス経営演習」という科目でグループワークを行いビジネスプランを作成する。講義科目で学んだ知識をすぐに定着させるのが狙いだ。同じように「マーケティング実践」という講義科目を受講すると、同時に「マーケティング情報演習」という科目でビジネスゲームを通じて定量的評価のやり方を実践的に身につける。

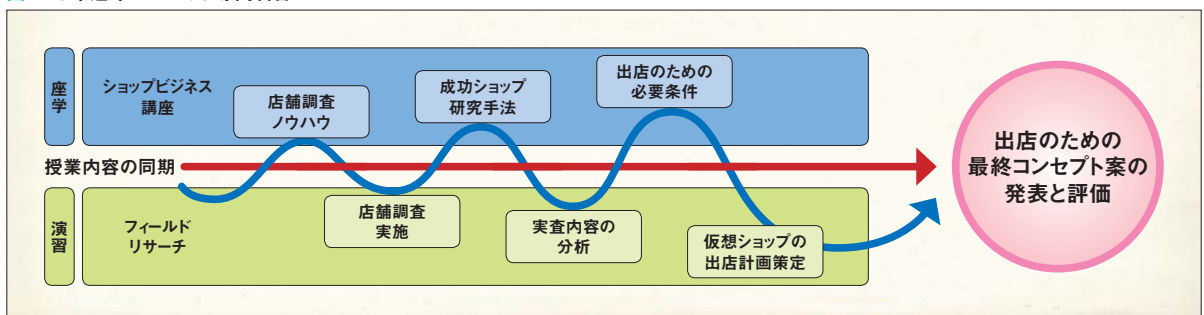
欧米やオーストラリアでは同一科目が週に3回あって、その中で講義とアクティブラーニングが組み合わせられているが、産業能率大学の場合は日本の仕組みの中で2科目を同時に学ぶことで同じ効果を実現しているのである。

### 企業や地元・自由が丘と連携し 「高次のアクティブラーニング」で 課題解決に取り組む

さらに専門知識を活用して問題解決に取り組む「高次のアクティブラーニング」を一部の学生だけでなくすべての学生が経験し、力を伸ばせる仕組みが導入されている。

現代ビジネス学科の学生は3年次に「ショップビジネス」「自由が丘まちづくり」「心理・コミュニケーション」「メディアコミュニケーション」「商品企画」の5つのテーマから1つを選んで取り組む。どのテーマも「高次のアクティブラーニング」と

図1 3年通年 ユニット専門科目



講義がセットになっていて、基本的に同じ日に連続2コマで行われる。

具体的には「ショップビジネス」というテーマでは、図1のように「ショップビジネス講座」と「フィールドリサーチ」の2科目が2コマ連続でセットとなっていて、「店舗調査ノウハウ」を座学で学んだ次の時間に「店舗調査実施」を行い、座学で「成功ショップ研究手法」を学んだ次の時間で「実査内容の分析」を行う。そして「出店のための必要条件」を座学で学んだ後に「仮想ショップの出店計画策定」を行い、そうしたすべてを総合して「出店のための最終コンセプト案の発表と評価」に至るのである。もちろん、ここで用いられる専門知識は、「ショップビジネス講座」で与えられるノウハウだけで

なく、他の科目も含めた経営学の専門知識全般にわたっている。

このほかにも、例えば「商品企画」というテーマでは、3年次前期が「新事業・商品企画の基礎」という授業で、その前半は講義で「ブックオフ」を事例に研究を行い、後半で新事業を考える。この科目とセットとなっている「ビジネスプラン作成演習」では、前半は講義が行われ、後半は実際に商品を企画して外部のビジネスプラン・コンテストに応募する。さらに、3年次後期では「新事業推進におけるマネジメント」が講義で、「新事業・商品企画の実践演習」は企業とコラボレーションし、現実の商品を題材に商品企画を産学連携で行うという「高次のアクティブラーニング」。この両者がセットとなること

で学生の力を伸ばしている。

さらに「都市型ビジネス」という科目群が2年次を対象に置かれていて、自由が丘の街に根付いた「高次のアクティブラーニング」が行われている。その中の一つ「自由が丘イベントコラボレーション」では、自由が丘商店街振興組合と協力し、「女神まつり」など各種イベントの企画、運営に参加したり、自由が丘セザンジュ（街案内人）という役割を実践的に担ったりする。

このように、産業能率大学では「高次のアクティブラーニング」もすべての学生が学べるように配置され、かつ学んだ専門知識を活用して問題解決に取り組むという点で、「深い学び」につながるようになりカリキュラム設計されているのである。

## Topic

### アクティブラーニングの成果を発揮し、 産業能率大学の学生チームが次々とコンテストで優勝！

産業能率大学のアクティブラーニングで力をつけた学生たちは、学外の様々なコンテストで居並ぶ名門大学チームを抑えて優勝を果たしている。

あたらす二十一主催  
「WEBプロモーショングランプリ」優勝



産業能率大学チームは、デジカメの普及、クラウド環境の充実、“絆”重視の社会への移行等の社会環境分析から、男性をターゲットとしたフォトブックの作成サイトを富士フィルムに企画提案。その他の入賞チーム 早稲田大学、明治大学、立教大学、法政大学、駒澤大学、東洋大学等

JTB法人東京主催 学生新事業提案コンテストCompass2012  
「～夜明けを探る旅～ 旅を基軸とした無限の可能性に挑戦」優勝



産業能率大学チームは、思春期の女子の父親離れというデータから、娘と父親が時間を共有できる長期プログラムをオリエンタルランドとJTBが共同作成するという企画を提案。その他の予選通過チーム 慶應義塾大学×2、早稲田大学、明治大学、混合チーム（早稲田×明治×明治学院）

※JTB法人東京は2013年より「JTBコーポレートセールス」に社名変更しています。



#### >> Interview

#### 産能大のアクティブラーニングを経験しているので、 自信を持ってコンテストに挑戦できました

「Compass2012 ～夜明けを探る旅～ 旅を基軸とした無限の可能性に挑戦」優勝チーム  
経営学部3年 田中ゼミ有志によるチーム（左から山崎勝椰、吉原のぞみ、小川夏穂、斎藤玲奈）



私たち4人は田中ゼミに所属していて、そこでの普段の会話から「ビジネスコンテストに挑戦してみよう!」と意気投合したのが始まりです。私自身はキャリア教育に積極的な高校出身にも関わらず、当時は何もせずに過ごしてしまったという後悔があり、入学前の「キャリア開発支援セミナー」で刺激を受け、大学では何でも積極的に挑戦しようと決めました。そしてオープンキャンパスのスタッフや自由が丘の商店会と大学が提携して学生が街の案内人を務める「自由が丘セザンジュ」などに取り組む中で、高校までの自分とは変わってきたと実感するようになり、立教大学経営学部の学生と自主的に行っているビジネスコンテストでも、私たちの経験してきたグループワークが十分に通用するという自信もつきました。その延長線上で今回のビジネスコンテストにも応募することなくチャレンジできました。  
小川夏穂（東京・都立晴海総合高校出身）



私は2年生まではあまり目標を意識して学生生活を過ごしていたとは言えません。しかし、マーケティング関連の授業はまじめに取り組んできたので、その知識を活用してみたいという気持ちがありました。それが田中ゼミで皆に知り合ってその積極的な姿勢に刺激を受け、ビジネスコンテストなら実社会と同じようにマーケティングの知識を活かせる、と考えるようになりました。ビジネスコンテストでもきっと実社会でも、優れたアイデアを具体化するには裏付けが欠かせません。私の場合は、ニーズの把握のための調査手法やフェルミ推定を用いた収支計算などを通じて、アイデアを説得力のあるビジネスプランに高めることに貢献できたと思います。  
山崎勝椰（神奈川・川崎市立川崎総合科学高校出身）

Interview!!



## 将来への見通しをどの時期に持つかで、 学生生活の送り方が違ってきます

京都大学高等教育研究開発推進センター 満上慎一准教授

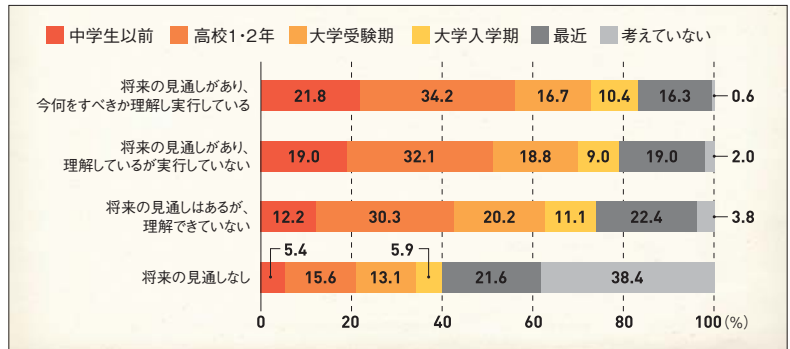
私は近年ずっと「二つのライフ」というテーマで、将来のライフと日々のライフの関係、つまり学生が将来への見通しを持っているかどうか、どのように彼らの日常の学習活動に結び付いているのかを調査しています。そこで明らかになったことは、「二つのライフ」は学習動機や、コミュニケーション力やプレゼンテーション力などのジェネリックスキル（汎用的技能）の獲得、さらにアクティブラーニングを含む学生参加型の授業の履修などに大きな影響を与えているということです。将来の見通しを持たない学生は、これらの点でいずれも消極的であることが判明しています。

そして、大切なことはいつから学生たちが将来のことを考え始めたかという、その時期です。「将来の見通しがあって、そのために何らかの準備をしている学生」たちの多くは、早

いものは中学から高校の1・2年生、遅くとも大学入学の後くらいに将来のことを考え始めているのです。その時期が遅くなるほど、将来の見通しもなく備えもしないまま学生時代を終えて行く学生が多くなっています。その

点で、産業能率大学が入学前から入学直後の1年次にキャリア教育を重点的に行って学生に将来像を持たせ、さらにアクティブラーニングを軸としたカリキュラムを導入していることに、私は注目しています。

### ■大学生はいつから将来のことを考えていたか



資料出所：京都大学高等教育研究開発推進センター・財団法人電通育英会共催「大学生のキャリア意識調査2007」より。

## 入学前から大学の入口と出口のことを意識させ、 4年間を通じキャリア教育を行います

産業能率大学経営学部 松尾 尚教授



産業能率大学のキャリア教育は、かなり特徴的です。特に入学前の段階で2日間にわたって「キャリア開発支援セミナー」を開催し、1日目には大学入学後のことを考えさせます。その素材を提供するのは1年の在学中で、大学に入学して期待通りだったことと違っていたこと、そして自分の夢がどう変わっていったのかを話してもらいます。それから入学予定者たちに、グループワークをしてもらうのですが、これはそうしたことを考えることに意義があるので、教員は内容に干渉しません。そして2日目は卒業後のことを考えさせるために内定が決まった4年生が登場し、将来の夢が能動的な意味で変わった経験話してもらい、それを受けてグループワークを行います。大学の入口と出口を考えさせることで、自然に入学予定者たちは学生生活をどう送

るべきかを考えるようになります。

また、本学では4年間連続する「ゼミ」がキャリアサポート科目に分類され、そこで一人ひとりと向き合ったキャリア教育を徹底的に行っています。さらに、本学ではキャリア教育の中で一番困難とされるジェネリックスキルの

向上に力を入れています。基本科目の多くでアクティブラーニングを取り入れているだけでなく、ジェネリックスキル向上を目的とした科目も2013年度からのスタートに向け多数準備しています。

### ■キャリア教育とアクティブラーニングの関係

